

適期中干し・溝切りとワキに注意！

適正生育量を確保しましょう!!



4月下旬より好天が続いているものの、移植後の強風で植傷みが見られ初期生育は若干停滞気味ですが、6月の気温は平年より高く、曇りや雨の日は少ない見込みです。気温上昇に伴い分げつも急激に進むことが予想されますので適期（早め）の中干し・溝切りを実施し適正な生育量を確保しましょう。また、ワキの発生にも十分注意し、発生が見られた場合は水を落とし夜干し等でガス抜きを行いましょう。

1、実証圃生育情報（5/28 調査）

コシヒカリ B L（管内 11 圃場平均）

*草丈・・・ 23.1 cm（並）

*葉数・・・ 5.0（やや早い）

*茎数・・・ 85.6 本/m²（やや少ない）

*葉色・・・ SPAD値 29.7（並）

移植後の強風の影響で分げつの発生が停滞気味で「やや少なめ」ですが回復基調です。

生育はほぼ平年並みです。（次回調査日 6/10）

2、ワキの発生に注意しましょう

●今後一ヶ月も気温が高く推移する見込みです。水温の上昇に伴い「ワキ」の発生が急激に多くなることが予想されます。ワキの発生は根腐れや生育停滞を引き起こします。水田に足を踏み入れ、気泡が多く発生する場合には「水の更新」や「夜間落水」によるガス抜きを実施し、土中に酸素を与え、根の健全化に努めましょう。

●特に、基盤整備 1 年目の圃場や有機質肥料を多く施用した圃場は注意が必要です。また水の交換をすることはできるだけ早朝に行い、日中は止水とし水温の上昇を図りましょう。

3、中干し、溝切りについて

中干しは時期を逃さず実施しましょう！（目安は田植後 1 か月です。）

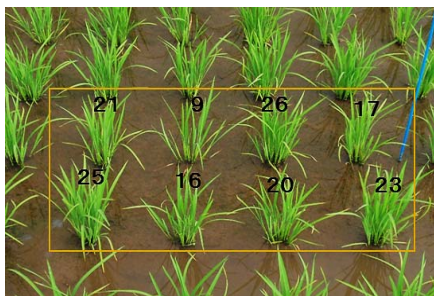
●中干しは目標茎数の 7~8 割程度を確保（田植後 30~35 日頃）したら適期です。

●梅雨に入ると十分な中干し効果が得られず、その後の生育調節が難しくなります。開始時期が遅れないように注意しましょう。

表 1. 各品種の中干し開始時期の目安

品種	目標穂数 (本/m ²)	中干し開始の茎数		
		m ² 当たり	50株植え	60株植え
コシヒカリ	360	290	19	16
こしいぶき	390	310	21	17
ゆきの精	400	320	21	18
ゆきん子舞	400	320	21	18
あきたこまち	400	320	21	18
ひとめぼれ	420	340	22	19
こがねもち	370	300	20	17
わたぼうし	350	280	18	15
五百万石	325	260	17	14
越淡麗	290	230	15	13

〔目で見える茎数〕



見た目より茎数はとれている

〔平均：19 本/株〕

※直播圃場の苗立ちが例年より多くなっています。茎数が多いほど倒伏の危険性が高まりますので早め強めの中干しを行いましょう！（中干しの目安： 点播：60 株 15 本/m² 50 株 19 本/m²）

中干しの早期実施で「根の健全化」と「穂肥を施用できる稲姿」に！

●中干し時期と収量・品質の関係

中干し時期	目標穂数比 (390本)	稈長	m ² 当たり 穂数 (本)	1穂当たり 籾数 (粒)	m ² 当たり 籾数 (粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	10a当たり 収量	乳心白粒 発生率 (%)
早期(5/31)	42%	93	378	70.5	26,600	89.2%	22.2	517	4.7
標準(6/9)	85%	96.3	410	70.2	28,300	84.3%	21.8	500	8.9
遅期(6/21)	143%	97.5	427	70.3	30,000	83.7%	22.2	529	11.7

※目標穂数の40%程度の早期中干しを開始しても、その後は良質茎が確保でき、登熟歩合や千粒重が高まるため、玄米品質は向上し乳心白粒の発生も少なく、収量にもほとんど影響を与えません。

～中干しの程度～

- 中干しは足跡がつく程度の土が湿った状態としましょう(右写真)。また、カドミウム吸収抑制対策のため「強い中干し」は控えましょう。
- 中干しの期間は天候にもよりますが「7～10日程度」を目安にしましょう。
- 中干し終了後の急激な灌水は「根の酸素不足による根腐れや下葉の枯れ上がり」を生じやすいので浅水の間断灌水を実施し「うわ根の発生促進と根の健全化」「地耐力の維持」に努めましょう。



理想的な中干し状態

- 溝切りはカドミウム吸収抑制対策のための湛水管理、フェーン時の緊急灌水、コンバイン収穫作業のための地耐力確保、稲の生育調整などに有効です。積極的に実施しましょう。

中干し、溝切りは適正生育量を確保し、生育後期の稲体を健全に保ち、登熟を良好にするための重要な技術です！

4、病虫害対策について

*いもち病

補植苗が置いたままの圃場が散見されます。補植苗はいもち病の発生源となるので速やかに除去しましょう。

- *イネミズゾウムシ(発生量:並 発生時期:やや早い) *イネドロオイムシ(発生量:並 発生時期:やや早い)
- 両害虫共に前年多発した場合、翌年も発生が多くなる傾向があります。「前年多発した圃場、中山間地域、集落周辺(風があまり当たらない圃場)」は特に発生に注意しましょう。管内の圃場でもイネミズゾウムシの発生が確認されています。早期発見・早期対応をお願いします。

※JA特別栽培米ではトレボン粒剤・シクロパック粒剤は使用できませんので注意しましょう。

5、斑点米防止対策について

斑点米カメムシ(アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ、オオトゲシラホシカメムシ)の発生量は近年増加し、被害も増えています(H26管内:14,077袋が格落ち被害)

- 被害抑制には出穂期までの畦畔雑草の管理により、カメムシの発生を抑えることが有効です。特に重点期間中はこまめに畦畔の草刈りを行い、カメムシの増殖を阻止しましょう。
- 地域一斉の草刈りでより高い効果が得られます。地域一斉の防除で「斑点米ゼロ」を目指しましょう。
- 7月末までに草刈りは終了し、8月中は草刈りを控えましょう。(8月中の草刈りはカメムシを本田内に追い込むことになります。)

草刈り重点推進期間

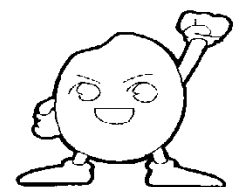
第1回 6月6日(土)～6月15日(月)

第2回 6月27日(土)～7月6日(月)

農道畦畔一斉防除期間

7月10日(金)～7月12日(日)⇒防除後草刈り

～地域一斉のカメムシ防除で斑点米ゼロを目指しましょう～



気温の高い日が続きます。水分補給はこまめに！

農作業は涼しい恰好で、無理せず熱中症に気を付けましょう！

カメムシ 斑点米防止対策

1. 草刈り重点推進期間

第1回 6月6日(土)～6月15日(月)

第2回 6月27日(土)～7月6日(月)

第3回 7月11日(土)～7月26日(日)

上記期間で草刈りを実施できなかった場合は、遅くとも「7月末」までに終了し、8月一杯は草刈りを控えましょう。

2. 農道畦畔一斉防除期間

7月10日(金)～7月12日(日)

- 8月中の草刈りはカメムシを本田内に追い込むこととなります。カメムシによる被害を軽減するために7月末までに実施しましょう
- 農道畦畔防除は地域一斉に行うことで防除効果が高まります。



JA北越後



○管内で斑点米を発生させる主なカメムシ



アカヒゲホソ
ミドリカスミカメ



アカスジ
カスミカメ



オオトゲシラホシ
カメムシ

これらのカメムシは春先から秋までアゼなどの雑草地で繁殖し、出穂期以降水田に侵入し、稲を加害します。

そのため、「出穂期までの草刈り」と「農道畦畔防除」により「カメムシの密度を減らしておく」ことが重要です！

○カメムシによる被害粒（北越後産米より）



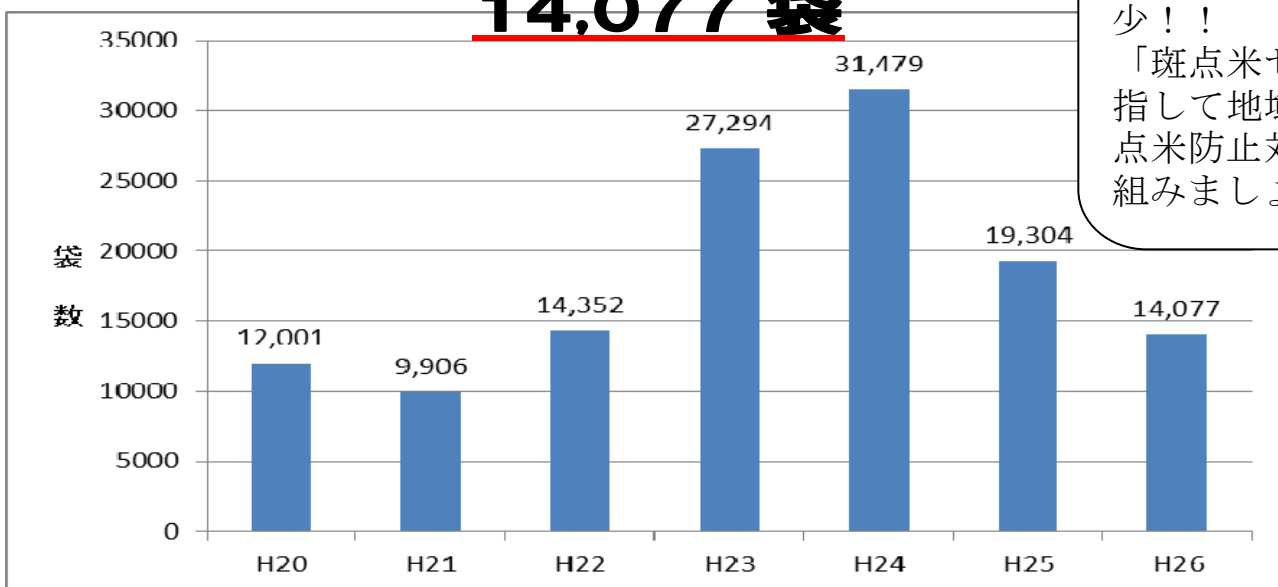
H26 品種別

斑点米格落ち比率

コシヒカリ	0.4%
こしいぶき	2.0%
ゆきん子舞	5.4%
ゆきの精	4.4%
あきたこまち	7.9%
ひとめぼれ	3.1%
わたぼうし	2.6%

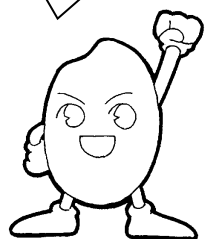
H26 年度管内斑点米格落ち数量

14,077 袋



昨年度、斑点米による格落ち数量は減少！！

「斑点米ゼロ」を目指して地域一斉に斑点米防止対策に取り組みましょう！！



**地域一斉の草刈りと防除の徹底で
カメムシ被害から稲を守りましょう！**